



恵那市教育研究所  
http://www.ena-gif.ed.jp/

恵那市長島町正家一丁目1番地1 恵那市役所西庁舎4階  
TEL (0573) 26-2111 FAX (0573) 26-2155



「森のカモシカ」

恵那西中学校 2年生 伊藤 大智

## 「恵那市の教育」への思い 将来あるべき教育の姿について

恵那市こども園園長会 会長 市川 紫



幼児期の遊びには、成長や発達にとって重要な体験が多く含まれ、遊びを通して学んでいます。

遊びや生活を通して、様々な刺激を受け、じっくり遊び込める時間・場・一緒に共感し合える仲間が大切ですが、今、遊び込める時間や、場を持つことが、難しくなっていると感じます。「肯定感が大事、スモールステップで」と、失敗させないような保育になりがちですが、先日参加した研修では、成功しないことが逆に楽しく、ハプニングが子ども達をワクワクさせ、好奇心や次への意欲につながった事例を聞く機会があり、自園ではどうかと振り返ってみました。

昨年、染め物をしたことをきっかけに、今年は藍の種を蒔き、草とり、水やり等をして育て、染物をしました。どうやったら染まるのか本で調べたり、相談したりしました。

たたき染めができるとわかり、早速たたいてみると、布に染みる様子が楽しく、「もっとやりたい」から、「この葉っぱもやってみよう」「この花はどうなる？」に繋がり、園庭中の植物に目が行きました。やってみたいというワクワク感が広がり、さらに大きな布を準備したことで、保護者も巻き込み、子どもと一緒にワクワク感を味わう活動になりました。子ども達が「どうなるのかな?」「やってみよう」と思える時間と、試すことのできる遊び込む場が必要です。すぐには答えや結果が出ませんが、行事等の合間をぬっ

て活動し、何日も時間をかけることで、自分から主体的にかかわることができ、遊び込むことができ満足感・充実感を味わうことができたのではないかと振り返りができました。

この活動から、「自然とかかわり」「思考力の芽生え」「自立心」「豊かな感性」等、幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を考えます。園では「接続期カリキュラム」と称し、小学校での「スタートカリキュラム」との連携をとるようにしています。県としても「架け橋プログラム」として進んでいます。また、少子化、不適切保育、保育士不足等、今の幼児教育の問題や課題が多くあることから、国が幼児期の大切さに目を向けるような方向に動いていることも聞きました。

子どもを取り巻く環境の第一は、地域です。各園でも、地域を巻き込んで育てようと連携を大切にしています。小学校には学習というカリキュラムがあるように、こども園にも、発達に応じたカリキュラムや、5領域・幼児期の終わりまでに育てたい10の姿を意識して保育に当たっていますが、まだまだ伝わっていないと感じます。

まずはワクワクできる気持ちを大切にいろんな経験や体験ができる時間や環境を作ること。そして、その活動を「楽しかったね。」で終わってしまわないように、活動の中で子ども達が育っている姿を、保護者や地域の方に理解していただけるように発信すること。恵那市の教育の第一歩として、みんなで同じ方向を向いて育てていくことに繋がっていくように努めたいです。

特



# 恵那市園・小学校合同研修会について

恵那市では、学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続についての理解を深めていくために、園・小学校合同研修会を実施しています。まずは、5歳児等の担任と、1年生等担任が双方の保育や授業を参観し、子どもたちの育ちを知ることから始めています。

## 【中野方小学校での参観】

小学校1年生の算数「のこりはいくつ ちがいはいくつ」の授業を参観し、児童の成長を実感しました。

- ・45分間集中して授業に取り組む姿
- ・絵や画像、体験があることで視覚的に捉えやすく根拠を明らかにして説明している姿
- ・聞く姿、話す姿、自力で考える姿、仲間と声をかけ合い考えていく姿
- ・ICTを活用する姿など

特にICTの活用は、全ての児童が使いこなしており、学びのツールとなっていることに感心すると同時に、支援が必要な児童について確認がしやすいと感じました。

児童の様子から今後の保育について考えました。

- ・物怖じしないで発言・発表できる機会を遊びの中に取り入れる。
- ・1つの課題に向かって挑戦していく楽しさや達成感が味わえるように環境設定を行う。
- ・集団遊びの中で作戦会議等を取り入れながら、発言する子としない子に対して同じ言葉がけではなく、個を把握した上で見守ったり、声掛けをしたりすることを工夫して一人一人の育ちを見とどける。
- ・遊びの中で数の概念を身に付けられるよう遊びや活動等を工夫する。幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を想起しながら授業を参観したことで、園児に付けたい力が明確になったようで、記載した以上に工夫改善したいことが出てきました。



【授業研究会の様子】

## 【山岡こども園保育参観】

各校区の小学校と園における連携計画にある保護者参観を実施しました。



【協力して制作している様子】

5歳児の制作活動「友達と一緒につくろう」の例を紹介します。

「友だちや仲間という意識がもてるような活動をしていきたい。」「自分の考えを相手に伝え、相手の思いも理解できるようになってほしい。」という保育者の思いや願いから、一つの物を複数の園児が協力して制作する活動を計画しました。当日の保育では、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿が観られました。

- ・グループそれぞれで試行錯誤しながら楽しんで一つの作品を制作する姿。【共同性・思考力の芽生え】
- ・友達の良さを口にしたり、自分の作った作品を自分で認めたりする姿。【道徳性・規範意識の芽生え・言葉による伝え合い・豊かな感性と表現など】

自分のやったことを友達に認められるのは、5歳児だからこそその姿であり、自己肯定感を高めていくためにとても大切だと感じました。

合同研修会を通して、5歳児の姿を小学校の先生方に知っていただくことや、小学校の授業参観を通して幼児期の終わりまでに育ってほしい姿をよりリアルに描き、遊びや活動を工夫したいと考えています。今後、校区の園と小学校で入学前後の育ちについて話し合う機会を作り、共に接続期カリキュラムについて考えることを実現したいという願いをもっています。

園・小学校合同研修会の締めくくりは、学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続について、鈴鹿大学こども教育学部教授橋村晴美先生にご講話いただく計画です。

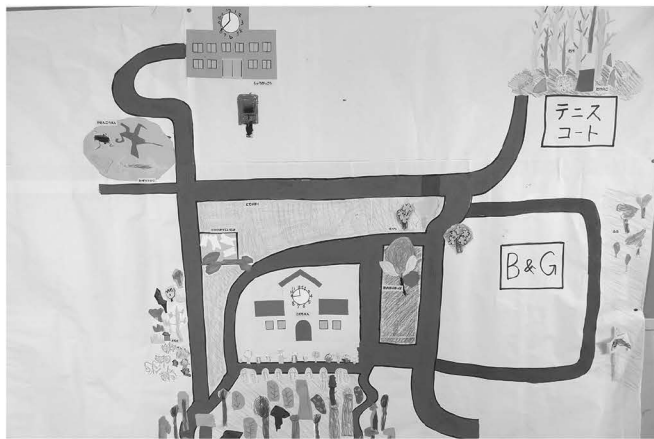
## 友だちと生き抜く力「心と体」を育む ～地域の自然を活かした豊かな体験～

山岡こども園

山岡こども園は山々に囲まれた田園地帯の高台にあり、静かで豊かな自然の中にあります。園庭の広さは東濃一といわれるほど広大です。その環境を活かし、登園するとすぐ園庭に出て遊ぶこども達。広い園庭を思いっきり走ったり、飛び跳ねたりして、知らず知らずのうちに体力も付くように感じます。約30年前より郷土食を大切に伝承し、食育にも力を入れています。また、地域の方との交流も大切にふるさとに愛着をもてるように働きかけています。

### 1. 自然と地域の中で

地域を知るため、様々な場所に出掛けています。散歩から帰ると巨大お散歩マップを年長児が中心に作成します。制作しながら「ここに、朴葉があったよ」「沢山ヨモギがあったね」「水カマキリがいたよ」と会話もはずみます。掲示してあるマップを他学年の園児も指差しして嬉しそうに見ています。身近な動植物も園周辺に沢山生息しています。クラスの前は沢山の生き物が入った飼育箱。ちょっとした虫かごミュージアムができあがります。夏には園庭の木にカブトムシ用ゼリーを塗り仕掛け作りし、知恵を使いながら園生活を楽しんでいます。また、職員から園児に挨拶をしてきたことで、地域の方に園児から挨拶を交わしコミュニケーションをとることもできるようになりました。



### 2. 食育を通して

3歳以上児は給食センター給食です。そして3歳未満児は自園給食です。自園の給食室では園の畑で収穫した採れたての野菜を調理し提供してもらえます。例えば人参の葉は天ぷらに、根部は人参サラダに、ラデッシュの葉はおかか和え、実は甘酢あえに、大根やカブの葉は無駄にせずふりかけにしてくれました。今年前期の人気メニューはピーマンのふりかけ、ナスのカリカリでした。「きゅうしょくだより～またつくってね～」は園児と給食調理員の食を通しての関わりやおススメレシピが連載されています。保護者も楽しみ



にしている通信です。また、長年の取り組みとして年長児を対象に給食調理員が食材ボードを見ながら、その日の献立内容をクイズ形式で出題します。この活動がより意味がもてるように、給食前に担任が献立内容を確認しています。ひとつひとつ食材名を園児と確認することで、食材の名前や成分を知ることができています。



コロナ前は親子参加で、3歳児親子は五平餅、4歳児親子はよもぎ餅、5歳児親子は朴葉寿司を、クッキングをして楽しみました。今は園児のみで郷土料理(朴葉寿司・五平餅)を味わっています。朴葉寿司作りでの食材集めでは、山岡の自然に目を向ける子が多くなり、活動の中で年齢を超えて伝承する場面も増えてきました。また、自ら摘んだり匂いを感じたり、自然の中から採ってきたものを使って料理することで、野草・野菜などにも興味をもち、食べてみようとする気持ちになり、食する意欲に繋がりました。今後も園庭の畑で野菜を作りクッキングを計画中です。



今後も保育環境を整えるとともに、こども理解をし、こどもの気持ちに寄り添いながら保育を展開していきたいです。

特

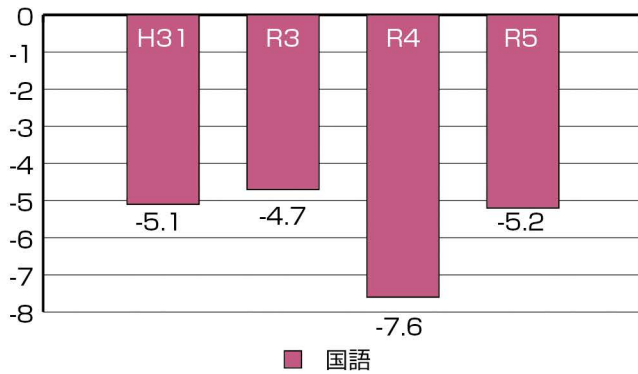


令和5年度  
恵那市

# 全国学力・学習状況調査経年変化

## 小学校

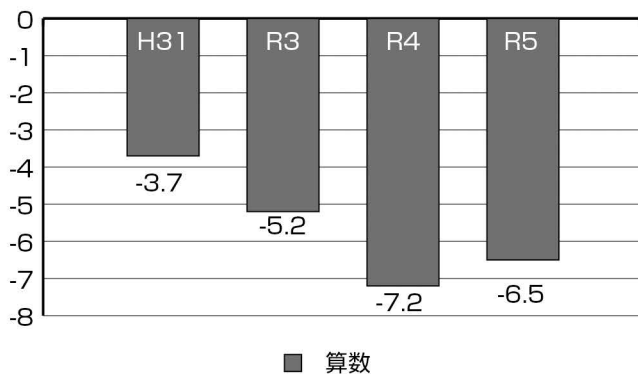
恵那市から見た全国平均との差(小学校国語)



### 小国

平均正答率を見ると、県との差は3ポイント、全国との差は5.2ポイントでした。学習指導要領の内容別に見ると、特に「知識及び技能」の内容や、「思考力・判断力・表現力等」の「B 書くこと」において課題が見られます。特にB 書くことの「図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる」問題が最も正答率が低い問題です。

恵那市から見た全国平均との差(小学校算数)

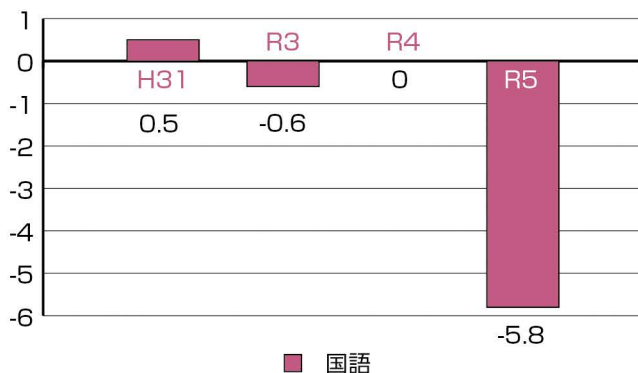


### 小算

平均正答率を見ると、県との差は4ポイント、全国との差は6.5ポイントでした。学習指導要領の領域別に見ると、全国及び県の平均正答率ともっとも開きがあったのが「A 数と計算」となり、もっとも正答率が低かったのが「B 図形」になります。また、比較的正答率が高い「C 変化と関係」においても、式や言葉を用いて記述する問題には、正答率が全国平均正答率を大きく下回っていました。

## 中学校

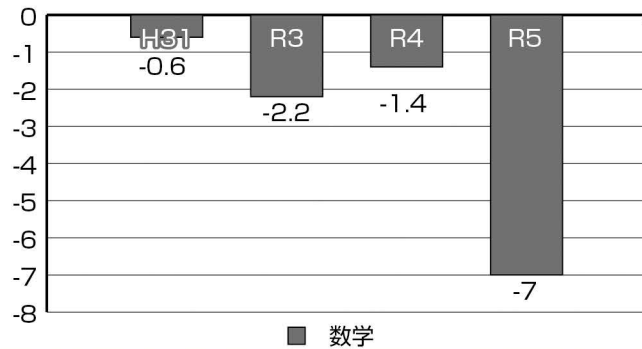
恵那市から見た全国平均との差(中学校国語)



### 中国

平均正答率の差を見ると、県との差は7ポイントで、全国との差は5.8ポイントでした。学習指導要領の領域別、評価の観点別に見ると、「知識及び技能」の「情報の扱い方に関する事項」、「思考力・表現力・判断力等」の「読むこと」において正答率が全国、県の平均正答率を大きく下回っています。

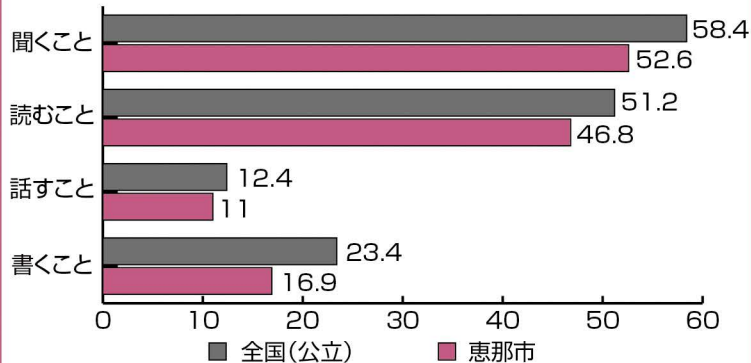
## 恵那市から見た全国平均との差(中学校数学)



## 中数

平均正答率を見ると、県との差は9ポイント、全国との差は7ポイントでした。学習指導要領の領域別に見ると「A 数と式」の正答率が54.0%で、全国との差は9.0ポイントになり、もっとも差が開いています。また、評価の観点別に見ると、「思考力・判断力・表現力等」において正答率が全国、県の平均正答率を大きく下回っています。

## 学習指導要領別に見た全国正答率との差



## 中英

平均正答率を見ると、県との差は8ポイント、全国との差は5.6ポイントでした。学習指導要領の領域別に見ると「書くこと」において正答率が全国、県の平均率と最も差が開いています。評価の観点においては、「知識・技能」、「思考・判断・表現」を問う問題の正答率がともに、全国と比較しても5.5ポイント下回っています。

## 【児童生徒質問紙より】

県や全国と比較して数値が高かった項目として、「ICTの活用」と、「地域の行事への参加」の2つがあります。

「5年生までに（1、2年生で）受けた授業で、コンピュータなどのICTをどの程度使用しましたか」については、小・中学校とも全国・県を上回っており、普段の授業で活用することが当たり前になってきていると考えられます。「ICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」という質問に対しては、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答している児童生徒の割合が高く、効果的に活用し、「役に立つ」と実感を得られていることがわかります。

「地域行事への参加」も同様に、全国、県を上回っています。恵那市には、地域の特色を生かした大切な行事や祭り等が残っており、コロナ禍で自粛していた活動が再開されています。これらに参加し、その意義を知っていくことは、恵那市の教育の重点の一つである「郷土愛」を育んでいくことにつながります。

一方、数値が低かった項目として、「自己肯定感」と「家庭学習」の2つがあります。

「自己肯定感」については、「自分にはよいところがあると思いますか」という質問について、小学校では「当てはまる」と答える児童の割合は増加傾向にありますが、全国平均よりも2.4ポイント低い状況です。また、中学校では、「当てはまる」と答えた生徒は全国平均を1.7ポイント上回っていましたが、「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」という否定的な回答も全国平均よりも、4.4ポイントと高い状況です。児童生徒は、他者との比較により自分を否定的に評価しがちです。自己肯定感を高めるためにも、結果だけでなく、取り組んだ事実を基に自己を振り返ったり、仲間と交流したりすることが必要になります。

「家庭学習」については、家庭で学習をしている時間が全国、県と比較して少ない傾向があります。地道に努力をして力を付けることを大切にし、継続して取り組むことのよさを実感させたいものです。さらに、見通しをもって計画的に学習をすることも、着実に付けるために必要になります。また、現在、学習ドリルアプリの検討を進めるとともに、家庭学習での効果的な活用についてまとめています。作成できましたら、お知らせしますので、そちらも活用してください。

以上が今年度の恵那市の全国学力状況調査の結果です。調査の結果を参考にして、各学校に合わせた教育活動の工夫に生かしていただきたいと思います。



中学校に入学した時、初めて習う英語の教科担任は教頭先生でした。重厚な黒ぶちメガネの奥の優しいまなざしと、朗らかな笑顔が今も脳裏に浮かびます。しかしその容貌とは裏腹に、授業は厳しいものでした。単元終末には、一人ずつそらで教科書本文を暗唱。時

間内に暗唱できなかった場合は、休み時間に職員室の教頭机の前で暗唱して「合格！」と言われるまで職員室通いが続くことになりました。本文をまるごと暗唱するためには、まず本文音読を何度も繰り返す。ストップウォッチでタイムの伸びを計りながら音読するうちに、ゲームのように次第に面白くなり、数十回音読するうちに、最初の単語を見ただけでそれに続く英文がすらすらと口をついて出てくるようになります。暗唱がさほど苦にならなくなり、中1のテキストをまるごと暗唱した覚えがあります。教頭先生の授業が自分の英語の基礎を養ってくださったと感謝していま

す。

不易と流行、現在の英語科授業とはまさに隔世の感がありますが、不易の部分としてはどちらもアウトプットを主眼に据えているという点でしょうか。暗唱も立派なアウトプットです。アウトプットすることによって、知識・経験が記憶として定着し、思考が整理されて理解度が上がります。現在の英語授業で、コミュニケーション活動やプレゼンテーション活動で話したり書いたりすること、特に自分の頭で考えた英語をアウトプットすることはとても効率的な学習法であると思います。

他教科においても、一般的に勉強と言えば教科書や参考書を読んで理解したり、ドリルで定着を図ったりといったインプットをイメージしがちです。本校生徒達には、人と対話する、教える、文章を書く、暗唱する、テストや問題集を解くといったアウトプットを大切にすると勉強が得意になるよと、自分の卑近な経験からアドバイスするもなかなか固定観念が崩せず、歯がゆい思いをしています。



令和5年度

## 夏休み 恵那市児童生徒の科学作品展審査会・読書感想文審査会 東濃地区社会科課題作品審査会結果

### 恵那市科学作品展

(敬称略)

| 審査結果 | 題 目                  | 学 校 名   | 学 年 | 氏 名     | 備 考  |
|------|----------------------|---------|-----|---------|------|
| 優秀賞  | ふーちゃんのあさがお           | 大 井 小   | 1   | 三 宅 双 葉 | 三好学賞 |
|      | 氷の実けん                | 岩 邑 小   | 3   | 原 空 生   |      |
|      | トンボをおいかけた夏休み3        | 長 島 小   | 3   | 山 田 創 介 |      |
|      | ISSにあえる回数を求めてみよう     | 武 並 小   | 5   | 鈴 木 康 介 |      |
|      | 紙のすいこむ力比べ            | 中 野 方 小 | 5   | 樋 田 莉 子 |      |
|      | あさがおとミニトマトのかんさつ      | 大 井 小   | 2   | 林 朋 生   | 三好学賞 |
|      | あさがおとゆうがおのけんきゅう パート2 | 東 野 小   | 2   | 西 尾 伊 織 | 三好学賞 |
|      | 豆みょうのそだち方のちがい        | 東 野 小   | 4   | 光 岡 光 莉 | 三好学賞 |

### 読書感想文コンクール 恵那市作品審査会

(敬称略)

| 審査結果 | 感想文の題名              | 書 名                            | 学 校 名   | 学 年 | 氏 名       |
|------|---------------------|--------------------------------|---------|-----|-----------|
| 優秀賞  | ひとのおもいにきづく          | オタマジャクシのうんどうかい                 | 長 島 小   | 1   | 小 林 慶 司   |
|      | ねこの手もかりたい           | ねこの手かします〜かいとうぜ口のまき〜            | 上 矢 作 小 | 2   | 田 中 美 咲   |
|      | それでいい!              | それでいい!                         | 中 野 方 小 | 1   | 各 務 日 咲 乃 |
|      | ぼくとウィリアム            | 耳が聞こえないメジャーリーガー ウィリアム・ホイ       | 大井第二小   | 4   | 斎 藤 大 知   |
|      | 感しゃする気持ちをわすれない      | フードバンクどろぼうをつかまえる!              | 大 井 小   | 4   | 奥 山 翠     |
|      | ぼくのココロ              | ココロ屋                           | 飯 地 小   | 4   | 柘 植 奏 太   |
|      | “こころのとも”ってどんなとも?    | こころのともってどんなとも                  | 山 岡 小   | 6   | 水 野 杏 乃   |
|      | 僕らの地球               | ぼくたちの緑の星                       | 長 島 小   | 6   | 市 川 侑 築   |
|      | 自分らしくいること           | ふたりのえびす                        | 上 矢 作 小 | 5   | 中 根 詩     |
|      | 生活を支える川 未来のためにできること | 人がつくった川・荒川 水害からのちを守り、暮らしを豊かにする | 恵 那 西 中 | 1   | 佐 々 木 恋   |
|      | ひとりだけひとりじゃない        | 宇宙のみなしご                        | 恵 那 北 中 | 2   | 樋 田 妃 南   |
|      | 平和な世界を当たり前にするために    | 平和のバトン                         | 明 智 中   | 3   | 大 島 萌 々 華 |